

令和元年に思うこと

飄

々

広報委員

津永 長門

令和の時代が始まり、はや5か月が経った。令和の出典は、万葉集巻五の「梅花調卅二首并序」にある一文「于時、初春令月、氣淑風和、梅披鏡前之粉、蘭薰珮後之香」であり、安倍首相が談話で「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」という意味を込めたと説明していたが、現実には真逆だ。あおり運転や虐待は相変わらずワイドショーを賑わせているし、いじめも子どもの問題と置いていたら、指導する立場の教師の間でもあるのには驚いた。加害者の言い訳も教師とは思えない子供じみた言い訳には呆れかえる。国外に目を向けると、北朝鮮からは弾道ミサイルが発射され続けているし、日韓関係は改善の兆しすら見いだせない。香港のデモは収まる気配さえ見せていない。中でも、この5か月で気になったことが二つある。

一つ目は、スウェーデンの若き環境活動家、グレタ・トゥーンベリさん（16歳）の存在だ。主に地球温暖化に対し警鐘を鳴らしているが、自身も二酸化炭素排出量を下げたため、飛行機に乗らない、肉を食べない、などを実践している。9月に開催された国連の気候行動サミットでは、若者代表として演説し、「失敗したら我々は許さない」と各国の指導者たちに警告したのは記憶に新しい。彼女の活動に対しては、一部ネガティブな報道もあるが、行動力には目を見張るものがあり、私はその若さを羨ましく思う。

関東・東北を襲った台風19号は、気象庁などが再三警報を出したにもかかわらず、各地で河川の氾濫をもたらした、80名の犠牲を出した。亡くなられた方々・被災された方々には、お悔やみと

お見舞い申し上げます。台風は、海水面の温度が高いと水蒸気の供給を受けて発達する。地球温暖化は海水面温度の上昇をもたらした、大規模台風の発生が近年増加していることに関係しているのは間違いない。地球温暖化対策としていろいろ議論されているが、対話や交渉でなく、今すぐ行動することだ。

二つ目は、10月7日の日本経済新聞に「出生数90万人割れへ 19年、推計より2年早く」との見出しが掲載されたことだ。平成28年に初めて出生数が100万人を下回り、わずか3年で90万人を割るとは衝撃だ。平成元年の出生数が124万人なので、30年間で34万人減ったことになる。山口県の人口も、平成元年が158万人だったものが、平成30年には136万人と22万人も減っている。子どもたちが通った小学校も、当時は1学年3クラスあったのが、今年は1クラスしかない学年も出てきて、空き教室が目立つとこのことを耳にした。日本は予測よりも速く超高齢化・少子化社会へと向かっている。

少子化対策の要は、女性が結婚して子どもを安心して産める環境を整えることだ。『未来の年表 人口減少日本でこれから起きること』（河合雅司 著、講談社現代新書）の中で少子化対策として第3子以降に1,000万円給付というインパクトのある提言がされている。計算してみると、1万人に増やすために1千億円が必要だが、将来の労働力の確保や年金制度の維持などを考えると、むしろ安いと思う。何より子どもがいなくて社会に活気が出てこない。政府は、幼児教育の無償化や待機児童解消に向けた対策を子育て支援の

柱にしてるが、肝心の子どもが日本からいなくなれば、意味をなさない。今すぐに行動することだ。

暗い話ばかりになったが、明るい話題としては、「ラグビーワールドカップ 2019 日本大会」で、日本代表 BRAVE BLOSSOMS が予選リーグ 4 戦全勝で初の 8 強に駒を進めた快進撃には胸躍らされた。また、今年のノーベル化学賞がリチウムイオン電池を開発した吉野 彰 氏に贈られたことは誇らしい。氏は、会見で台風 19 号についても触

れられ、「災害が起きた場合、リチウムイオン電池で何ができるかを考えると、例えば、電気自動車が 1 台あれば、停電でも家庭で 2 日分の電気を使える。今後、研究者として、環境問題への寄与も考えていかなければと思う」と話されていた。

令和の英訳は「Beautiful Harmony = 美しい調和」。実現しますように。

日医 FAX ニュース

2019 年（令和元年）10 月 1 日 2818 号

- 病院名公表目的は「調整会議の活性化」
- 再検証、「機械的な対応せず」
- 18 年度調剤医療費、7 兆 4,279 億円
- 自立支援・重度化防止へ保険者機能議論
- ロタワクチン、来年 10 月定期接種化へ

2019 年（令和元年）10 月 4 日 2819 号

- 地域の実情を加味しながら議論を
- 機能競合の公立・公的は「引くべき」
- 特例施設、指定の枠組み案を提示
- ロタワクチン定期接種化など了承
- 「日医君」の LINE スタンプを発売

2019 年（令和元年）10 月 8 日 2820 号

- 424 病院、公表趣旨を厚労省が説明へ
- 地域医療構想の実現、「思いは同じ」
- HPV ワクチンの積極的接種で、声明へ
- 再検証要請の病院「議論のきっかけに」

2019 年（令和元年）10 月 11 日 2821 号

- 持続可能な社会保障確立へ財源確保を
- 受診時定額負担「容認できない」
- 新規腎性貧血治療薬、新評価体系を検討
- B 水準病院でも「全医師対象ではない」

2019 年（令和元年）10 月 18 日 2822 号

- 台風 19 号、各県医が JMAT の派遣継続
- 産業医の全国組織を設置へ
- 過疎地域への優遇策検討を提言
- セファゾリンなど供給不安
- 伝染性紅斑、過去 5 年比「かなり多い」

2019 年（令和元年）10 月 22 日 2823 号

- 「基本診療料等の評価」で各側対立
- 療養経過措置の対応で意見割れる
- 424 病院公表、構成員から評価と慎重論

2019 年（令和元年）10 月 25 日 2824 号

- CT・MRI 保守、算定要件化に慎重論
- 医療提供体制は「三位一体」で推進
- タスク・シフト／シェア推進で議論開始
- サブスペ領域の在り方で議論スタート
- 伝染性紅斑、過去 5 年比「かなり多い」

2019 年（令和元年）10 月 29 日 2825 号

- 救急医療管理加算、見直しで一致
- 療養・就労両立支援指導料の見直しへ
- セファゾリン供給、段階的に再開へ
- 「日医君」カレンダーの先行予約を開始
- インフル、定点当たり報告数は減少